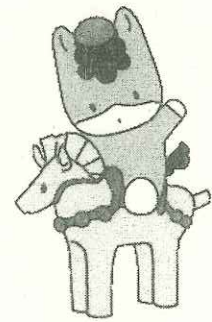


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

噴火から分かる古墳人

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 3 組 17 番

氏名 佐々木 結衣

● 調査のきっかけ

私は小学6年生から色々な古墳に興味があり、実際に訪れていました。平成24年11月に発見された『甲を着た古墳人』の発掘は日本初であり、私にとって、とても衝撃的でした。



実際に見て詳しく調べたいと思い調査を始めました。

★ 調べたいこと ★

- ・古墳人と噴火の関係性について。
- ・ムラの様子。『重い甲を背負ったまま亡くなっていたのはどうしてなのか。』
- ・当時の古墳の様子。
- ・『甲を着た古墳人』が噴火を鎮めるためにカミにお祈りしていたという説や逃げようとする寸前でとっさに身を伏せたという説もあるが実際はどうだったのか。

● 調査方法

令和3年 7月25日

群馬県渋川市北橋町にある群馬県埋蔵文化調査センター発掘情報館で調査



噴火と古墳人の関係性について
調べる

群馬県渋川市金井にある金井東裏遺跡で現地調査



金井東裏遺跡について
ムラの様子
(広さ、大きさ、どのようなムラ
だったのか)

群馬県渋川市金井にある金井古墳で現地調査



金井東裏遺跡との関係はあるのか
もしあるとすればどんな関係
なのか

● 調査結果

・ 金井東裏遺跡が発見された場所
 榛名山の北東麓、二ツ岳より 8.5 km 北東

・ 発見された日
 平成 24 年(2012 年)11 月 19 日



群馬県埋蔵文化調査センター
 発掘情報館



金井東裏遺跡は、古墳時代の 2 回の大噴火で埋もれた遺跡で、6 世紀初頭で壊滅し、噴火は現在の二ツ岳の位置で起こったもので遺跡から 8 km の近距離にあるらしく、二ツ岳は、二回目の噴火の時にでき、1 回目の噴火で被災した金井東裏遺跡のムラの人たちは見ていなかったそうです。

甲を着た古墳人(レプリカ)



首飾りの古墳人(レプリカ)



幼児(四号人骨)



金井東裏遺跡では、甲を着た古墳人(1 号人骨)、首飾りの古墳人(3 号人骨)以外にも、乳幼児(2 号人骨)、幼児(4 号人骨)も発掘されました。

『甲を着た古墳人』は 40 代の男性で、身長 164 cm で榛名山の方向を向いて倒れており、出土状況から膝立ちの状態で上半身が前方左側で倒れ込んだと考えられています。また、近畿から北九州古墳人の渡来系で、西からの移住者である可能性も示されています。甲や冑、副葬品の状態から、リーダー的存在で、マツリに関する人物で保渡田古墳群同等の力を持っていた可能性が高いようです。

『首飾りの古墳人』は 30 代の女性で身長 143.8 cm で『甲を着た古墳人』の西側 17m のところ、道が溝を横断する地点で頭を北東方向にして倒れていました。また、関東や東北の古墳人の特徴を持っていますが、『甲を着た古墳人』と生まれ育った地域は同じだと考えられています。

乳幼児は『甲を着た古墳人』の東側 2 m の溝に頭の骨の一部だけ見つかりました。

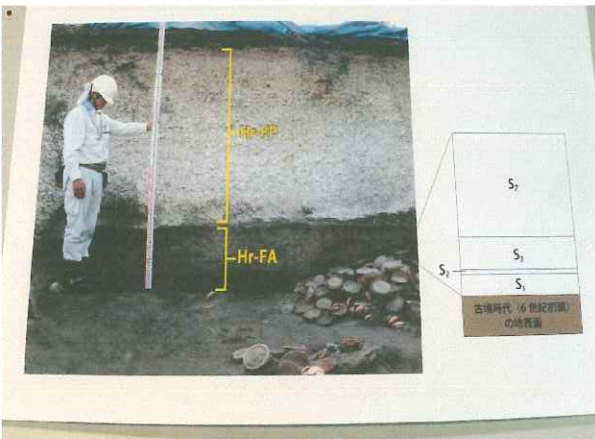
幼児は『甲を着た古墳人』の北西 27m の平らなところで頭を南東方向に向けて両手足を大の字に向けてうつ伏せに倒れていました。



『甲を着た古墳人』
『首飾りの古墳人』
乳幼児、幼児
が見つかったところ。



火砕流によって埋もれてしまった
『甲を着た古墳人』たちの
ムラの本来の姿。
1号墳と2号墳の石室が見えてしま
っており、噴火によって墓石がとん
でしまうほど強かったことが
分かる。



一番下の層の Hr-FA は、
一回目の火山の噴火で
積もったもの
その上に積もっているものは
Hr-FP(軽石を含む)で二回目
の火山の噴火で積もったもの
明らかに二回目の噴火の方が多
く積もってしまったことが
わかる。
ムラの人たちは一回目の火山の
噴火後に避難を始めたらしい。
1回目の噴火後にムラの人たち
が避難した足跡も残っている
らしい。



調査をしている様子。
噴火の衝撃力は時速 108km で
250~500 kgもの衝撃があり、ムラ
は
完全に埋もれてしまった。

金井東裏遺跡

写真 1



実際に現地に訪れてみたが、残念ながら道路工事のため埋められており、あった場所を示す看板があるだけだった。

写真 1 の中心にある看板は『甲を着た古墳人』が見つかったところ。その右にある看板は乳幼児が見つかったところ。

写真 2



写真 2 の手前にある看板は『首飾りの古墳人』が見つかったところ。その奥にある看板は幼児が見つかったところ。



写真 1、写真 2 から考えると、上空から見た場合、左の写真のようになるだろう。



左の写真が1号墳で、右の写真が二号墳である。



この写真は平地建物である。
この建物は火山噴火のとき、崩壊して
しまい、建物ではなくなり、跡が残る
だけだった。



これらの写真を上空から見た場合、
左の写真のようになるだろう。そして、
左の写真の中心な辺にあるのは平地建物
である。何なのか分からなくなってしまっ
ている。

金井古墳

★噴火との関係性を調べる



金井古墳の様子。
円墳のような形をしている。

・金井古墳は榛名山(現在の二ツ岳付近)の爆発により積もった軽石層(この軽石層を含んだものが金井東裏遺跡の層にも見つかっている。)を切り開いて造られた直径 14m の円墳。

石室は両袖型の横穴式で、天井の側壁の上部は壊れている。

石室は玄室、羨道、前庭部に分かれ玄室、羨道の境には、きり石で造られた玄門がある。石室の石材は自然石と、岩のきり石が使われている。

出土品は須恵器破片などだが、その数は少ない。

この古墳は 7 世紀末に造られたものと推定される。



以上のことから、榛名山の噴火が起こり、金井東裏ムラが壊滅したのが 6 世紀初頭でこの古墳が作られたのは 7 世紀末と推定されるので、ほぼ同時期だと分かる。



● 情報整理

金井東裏遺跡 . . . 古墳時代の 2 回の大噴火で埋もれた遺跡。
榛名山の北東麓、二ツ岳より 8.5 km 北東に位置。



噴火の被害者 . . . 『甲を着た古墳人』、『首飾りの古墳人』、乳幼児、幼児

『甲を着た古墳人』 . . . 40 代男性、身長 164cm

榛名山の方向を見て倒れていた。

膝立ちの状態で前方左側で倒れ込んだと考えられる。

近畿から北九州古墳人の渡来系

西からの移住者という可能性、

リーダー的存在、マツリに関係する人物だった可能性も

『首飾りの古墳人』 . . . 30 代女性、身長 143,8 cm

『甲を着た古墳人』の西側 17m のところ、道が溝を横断する
地点で頭を北東方向にして倒れていた。

関東や東北の古墳人の特徴を持つ

『甲を着た古墳人』と生まれ育った地域は同じと考えられる。

乳幼児 . . . 性別不明

『甲を着た古墳人』の東側 2m の溝に頭の骨の一部だけ
見つかる

幼児 . . . 性別不明

『甲を着た古墳人』の北西 27m の平らなところで頭を南東
方向に向けて両手足を大の字にしてうつ伏せに倒れていた。

《噴火の真相解明に向けて》

噴火の衝撃力は時速 108km、250~500 kgもの衝撃があった。

1号墳、2号墳の葺石がとんでしまうほど強かった。

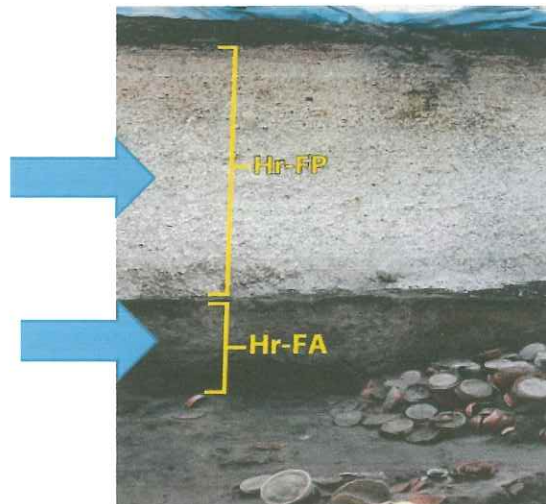
Hr-FP(二回目の噴火で積もったもの)の方が Hr-FA(一回目の噴火で積もったもの)より何倍も強かった。金井東裏ムラの人たちたちは1回目の噴火後に急いで避難した。

そのため、Hr-FAの上にはムラの人たちの足跡が残っていた。

その後の噴火で金井東裏ムラは完全におおわれてしまった。

2回目の
火山噴火
(軽石を含む)

1回目の
火山噴火



そして、その噴火によって積もった軽石層を切り開いて造られたのが金井古墳ということから、火山噴火と金井古墳には関係があることが判明した。

● 考察



① 古墳人と噴火の関係性について

火砕流と火山灰の下から発見された『甲を着た古墳人』、噴火後の層の様子や当時の金井東裏ムラの様子や噴火後のムラの状況やムラの人たちの行動がわかってきた。

ムラの人たちは1回目の噴火のとき、何かしら安全な場所に避難した。Hr-FAの層の長さからしてなかなかのものだったと考えられる。そして、1回目の噴火後、大人から子供まで集団で避難し始めた。噴火による被害者が4人ということから、2回目の噴火が来るまでに間があったと考えられる。

②『甲を着た古墳人』が重い甲を背負ったまま亡くなっていたのはどうしてなのか

もし逃げようとする寸前でとっさに身を伏せたとなると榛名山の逆方向を向いて倒れていると考えられ、榛名山の方向を見て倒れていたというのが不自然になってしまうのではないかと、思う。また、噴火したら普通、なるべく山から遠ざかろうとするはずである。それに、膝立ちの状態前方左側で倒れ込んだ状態で見つかったことからカミに拝んでいるように見え、どうしてもカミにお祈りしていたとしか思えない。よって、私は噴火を鎮めるためにカミにお祈りしていたのが妥当だと考える。

③噴火を鎮めるためにカミにお祈りしていたという説や逃げようとする寸前でとっさに身を伏せたという説もあるが実際はどうだったのか

しかし、仮にカミにお祈りしていたとすると、重い甲を背負っていたというのも不思議である。なぜ、そうする必要があったのか。今回の調査で、私は『甲を着た古墳人』の周りに武具が見つかったということも知った。なぜ、カミを恐れ、敬っていたはずなのに周りに武具が見つかったのか。私の考えでは鎮める儀式(周りの武具を配置)を行っているのに静まらない。なので、『甲を着た古墳人』は自己防衛もかねてカミを力尽くで鎮めにいったのではないかと、考えた。ムラが噴火によって破壊され、『甲を着た古墳人』は今すぐに鎮めなくては、と考えたはずである。このムラに最後まで踏みとどまっていたのもムラを最後まで守りたかったからではないかと思う。

●感想

今回、榛名山の噴火から古墳人について考えてみましたが、初めての発見がたくさんあってとても驚きました。『甲を着た古墳人』が日本初ということはもちろんですが、『甲を着た古墳人』は西からの移住者と考えられることについては、群馬がそれだけ大和政権から重要視されていたということを表すので群馬の魅力がまた1つ見つかったと思いました。また、『甲を着た古墳人』が保渡田古墳群と同等の力を持っていたということも驚きでした。今回の調査でより東国文化について詳しく知ることができ、群馬について深く知ることができました。

参考文献

- | | |
|---|---|
| 若狭 徹 『古墳人、現る 金井東裏遺跡の奇跡』 | 2019年7月13日 |
| 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | |
| 笹生 衛 『金井遺跡群と古墳時代の祭祀』 | 2018年2月24日 |
| 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 | |
| 群馬の地図 | 2021年8月1日 |
| https://bizgate.nikkei.co.jp/article/DGXMZO8604813023042015000000/ | |
| 幼児 | https://www.pref.gunma.jp/contents/000270930.jpg 2021年8月1日 |